

桐 kiri

目白の森から風便り

目白学園 広報誌

学校法人 目白学園

目白大学大学院

目白大学

目白大学短期大学部

目白学園中学校・高等学校

第15号

通算113号

2009.3



Special issue-1

高度化する医療環境に対応できる 人材の育成を目指して

「目白大学国立埼玉病院キャンパス」誕生!

Special issue-2

アメニティー・テラス

『ポローニア』

新宿キャンパスに新しい名所がオープン!

学生生活を経済面から強力サポート

奨学金を利用しよう!

学園インフォメーション

輝く目白の星

「より良い大学にしたい」という想いを ロゴマークと歌に託して

人間学部心理カウンセリング学科4年 柴崎 雅人さん

社会学部メディア表現学科2年 金子 隆一郎さん

表紙写真撮影:佐藤 真那人(心理カウンセリング学科4年)

「目白大学国立埼玉病院キャンパス」誕生！ 高度化する医療環境に対応できる 人材の育成を目指して

平成21年4月、埼玉県和光市の国立埼玉病院内に新キャンパスが新設され、キャンパス内に「大学院看護学研究科」が設置されます。市内初の大学院が誕生するにあたり、和光市と目白大学は、福祉・教育の分野で連携するための相互協力協定を結びました。

看護師のクオリティを 高める必要性

埼玉県下で中核的存在とされる大型医療機関と本学との本格的な連携は、高度化する医療環境のなかで総合的なリーダーシップを発揮できる人材の育成を大きな目標に据え、始動しました。こうした人材の育成は、時代と社会のニーズが高まるなか、医療・教育関係者にとって急務といえるでしょう。

「必ずしも高度な医療現場だけが看護師の活躍の場ではありません。しかし、今日では高齢化・少子化社会、新しい感染症や疾病などさまざまな問題が生まれています。また、知識や技術はもちろん、患者さん一人ひとりに合った対応の仕方など、医療従事者に求められるものは、いずれも高度かつ複雑になっています。そのような時代の流れにおいて、患者さんやその家族をはじめとする社会のニーズに対応していくためには、看護は単なる補助職としてではなく、もっと専門性の高い、リーダーシップをとることができる独立した専門職として位置づけられる必要があるのではないのでしょうか。かつて看護師や保健師育成の舞台は、主に各種学校や専門学校でした。それがこの10年くらいに短期大学へ移行し、さらに四年制大学へとシフトしてきましたが、看護師に求められているものは、もはや学士課程で学ぶことだけでは十分とはいえないと考えています」(佐藤弘毅学長)

目白大学は、平成17年に保健医療学部を、翌年には看護学部を開設しました。そこへ新たに大学院を設置するにあたり、医療現場での経験豊かな教員の多い本学として強く意識したのは、「実学的なアプローチが可能でなければならない」ということ。その点で、病院との連携は理想に合ったスタイルです。また、新キャンパスは、病院との相互協力体制に加え、新宿キャンパスにある心理カウンセリングセンターの分室も併設しています。これらの充実した環境は、学ぶ側と医療を受ける側双方にとって大きなメリットとなるでしょう。

地域の期待高まる

「保健医療村」構想

地域に密着した国立病院と協働することで、本学の活躍の幅は大きく広がることとなります。その一例が「保健医療村」構想です。コンセプトは“地域に根ざした病院づくり”。急性期病院(※)として「地域

医療支援病院」「地域がん診療連携拠点病院」「循環器病基幹医療施設」に重点を置き、訪問看護ステーションや検診センター、老人保健施設等の設置も検討されています。このような構想を背景に、看護学研究科は人材養成・研究機関として、地域医療の推進に対する大きな期待を背負っているのです。

看護師の精鋭を育成する

その環境とは――

「看護マネジメント」「コミュニティ看護学」「ウイメンズヘルス看護学」の3つの分野に分かれて研究を行う看護学研究科。高度な実践能力や研究開発を行うべく他の研



ています。学生個々の学習歴にあわせた指導、看護学はもとより幅広い分野の選択科目、理化学研究所から講師を招いての授業など、最先端の生命科学研究に触れる機会があることは大きな魅力です。

心理カウンセリング センターの分室も誕生

心理カウンセリングは、本大学院が力を入れている研究のひとつ。そのベースには、財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定校として、これまで多くの臨床心理士を輩出している本学心理学研究科の実績があります。ちなみに、平成20年秋に行われた臨床心理士資格試験における昨春の本大学院修了生の合格率は80.8%。全国平均の65.5%を大きく上回っています。

こうした実績と定評を背景に、この新キャンパスにも心理カウンセリングセンターの分室を併設します。社会人や子どもも来室しやすいよう、週末を中心に当面は週3日の開室となります。

「臨床心理士という職名は、近年、社会的にもたいぶ認知されるようになってきました。それに伴って、臨床心理士の職域は教育機関や医療、産業、福祉など多岐にわたるようになってきています。しかし、それでも一般の人々にとっては、実際にクリニックなどでカウンセリングを受けるということは、まだ敷居が高く感じられるという現実があるようです。心理カウンセリングは、一般の方にも、もう少し気軽に利用していただけたらと思います。日常生活の中の問題について、また人生の節目において自分の気持ちを整理してみようと思うとき、カウンセラーは話を聴き、共に考え、そのお手伝いをします。」(心理カウンセリングセンター分室長就任予定:小池真規子教授)

また、時間割は夜間土曜開講制・ Semester制で社会人が学びやすい構成となつ

一般的に、心理カウンセリングを受ける施設といえば、精神科や心療内科のクリニックと理解されていますが、このようなカウンセリング専門の機関であれば、もっと気軽に通えるのではないのでしょうか。新宿キャンパスの心理カウンセリングセンターと同様、この新しい分室も地域に貢献できる施設としてより発展していくことが期待されています。

※「急性期病院」とは、発症して間もない患者や症状が不安定な患者に対して、専門的な治療を一定期間、集中して行う病院のこと。

教員紹介



看護学部看護学科
刀根 洋子 教授
とね ようこ
日本赤十字看護大学教授を経て現職。研究領域は、子どもの虐待や発達障害と育児支援、看護研究・実践における倫理的問題、フランスの看護教育制度と看護の歴史等幅広い。専門は、ウイメンズヘルス看護学分野。若年層の妊娠中絶、性感染症予防、安全確実な受胎調節、不妊医療、親子関係と子どものケア、更年期のQOL、骨粗しょう症予防、女性特有の疾患の予防および治療等、多岐にわたる女性の生涯健康と育児支援において、医療施設から家庭・コミュニティへと繋がりを持った実践研究を扱う。

教員紹介



人間学部
心理カウンセリング学科
小池 真規子 教授
こいけ まきこ
東京学芸大学教育学部卒業、筑波大学大学院教育研究科修士課程修了。東邦大学医学部付属病院小児科、国立がんセンター東病院等心理職を経て現職。がんをめぐる心理学的研究が専門。小児を含め患者・家族の長いライフスパンに沿った全人的視点よりの臨床心理学的研究を目指している。また、がん対策基本法施行により病院等での雇用が増えているがん医療に携わる心理士の教育・研修、ネットワーク等の実践的研究を行っている。

看護学研究科 3つの分野

看護マネジメント

医療機関の中心的な看護師としてのマネジメントの研究

※上級実践コースあり。

コミュニティ看護学

地域住民の健康生活支援、支援が必要な小児・高齢者・精神疾患を持つ人達とその家族をサポートするための実践研究

ウイメンズヘルス看護学

思春期や周産期、育児期、更年期の女性の健康を支える看護についての研究

※上級実践コースあり。

新宿キャンパスに新しい名所がオープン! アメニティー・テラス『ポローニア』

平成20年11月25日、新宿キャンパス1号館の隣にアメニティー・テラスが誕生しました。テラス内にはコンビニとカフェスタンドも設置され、昼食や飲み物を手にした学生たちが連日賑わいをみせています。今回は、このオープンまもない新しい人気スポットをご紹介します。

抜群の開放感が 実現

約4,000名の学生を抱える新宿キャンパスにとって、学生たちが空き時間などに気軽に集えるスペースの確保は急務でした。従来の学生食堂は、お昼時ともなると大変な混雑ぶり。そんな状況を打開すべく「新しいコミュニティスペースを新設しよう!」という声があり、当初の予定より2ヵ月ほど遅れたものの、見事なアメニティー・テラスが完成しました。

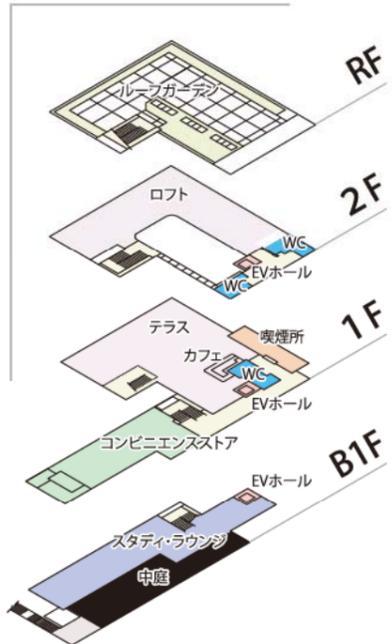
この新しい施設はオープニングセレモニーの際、佐藤弘毅学長により「ポローニア」(桐)と命名されました。桐は本学の校章のモチーフでもあり、きっと多くの学生や教

職員が親近感を抱くことでしょう。ちなみに、これまで同名で呼ばれていた7号館地下の空間は「ポローニアII」と改称。さらに、隣接する1号館地下で学生食堂として利用されている「学園ホール」は、「カフェテリア」と呼び名を変えました。

新生「ポローニア」は、そのカフェテリアに地下1階フロアが隣接し、ウッドデッキのパティオを横目に地上1階へ上がると、2階のロフトまで吹き抜けの空間が広がります。陽光が燦爛と降り注ぐ大きな窓からは、キャンパス内の緑を望むことができ、開放感あふれるスペースとなりました。屋上のルーフガーデンは、暖かい季節には人気のスペースとなりそうです。



各フロア平面図



コンビニ&カフェも登場 座席数は2倍以上!

ポローニアのオープンと同時に、1号館の地下にあったコンビニエンスストアはテラスがある1階に移転。売場面積はおよそ1.5倍に拡張され、品揃えも豊富になっています。同じく1階の入り口付近にはカフェスタンドがオープンしました。淹れたての本格的なコーヒーをはじめ、マンゴー、桃、アセロラなど5種類のフルーツジュースが用意されていて、談笑のお供として早くも大人気です。

これまで新宿キャンパス内で憩いの場として利用されていたスペースは、食堂や

ラウンジなどを合わせても450席ほど。そのため、特に昼食時は慢性的に座席数が不足気味となっていました。しかし、このポローニアが完成したことで座席数は一気に2倍以上の930席に。ただ、ポローニアで



くつろぐ学生たちにそれを伝えると、誰もが「意外だ」と口を揃えます。実際に建物内に足を踏み入ると、それ以上の広さを感じるからです。

テーマは「光」「緑」 そして「開放感」

ポローニアは1号館の裏手に位置していますが、南と西に採光面をとってあるので一日中太陽の光が入ります。しかし、開放感を演出しているのは明るさだけではありません。吹き抜けの構造も一役買っているでしょう。大きな窓からの眺望には、新

宿キャンパスが高台にあることのメリットが活かされています。また、都心でありながら緑豊かな土地であることも味方しました。

「限られたスペースのなかで、これだけの施設を作ることはそう簡単なことではありません。それでも学生たちにとっては必要な施設。広々とした明るい印象を与えたい。しかし、自然豊かな森の緑をなくすわけにはいかないでしょう。ですから、緑と敷地の有効性を活かすことにこだわって設計してもらいました。高台の住宅街という場所柄、地域住民への配慮も欠かせません。予定よりも遅れましたが、やっと完成

したアメニティー・テラスです。ただ食事をするためだけでなく、学生同士や教職員とのコミュニケーション・スペースとしても利用してもらいたい。皆さんのキャンパスライフを充実させる一助として、大いに活用してほしいですね」(管理部・福嶋一郎部長)

ポローニアは、レポートを書いたり音楽やおしゃべりを楽しむなど、集まるすべての人々にとっての憩いの場。今後も、キャンパスライフによりいっそうの潤いを与えるこの新しい名所を大切に利用していきたいものです。



学生生活を経済面から強力サポート

奨学金を利用しよう!

急速な景気悪化の影響を受け、本学でも昨年11月頃から、学費の支払いに関する相談が急増しています。こうした経済的な理由により修学困難な学生に対し、学業資金を貸与することで学生生活をサポートするのが奨学金制度です。今回は本学で利用できる奨学金制度について、優秀な学生に対し表彰を行う制度と併せてご紹介します。

在学生の20%が奨学金を利用

現在、在学生全体の約5人に1人が、何らかの奨学金を受給しています。その中で、最も多くの学生が利用しているのが、独立行政法人日本学生支援機構(旧・日本育英会)が運営する奨学金制度です。無利子貸与の第一種奨学金と有利子貸与の第二種奨学金の2種類があり、学力基準と家計基準から受給の可否が決定されます。

応募形態には、大学に入学する前に申し込む「予約採用」という方法と、入学後に申し込む「在学採用」の2つがあります。「在学採用」に応募する場合には、毎年4月に行われる学内での大学・短大合同説明会への参加が必要です。その後、学生サービスグループ(新宿キャンパス)または教務・学生支援グループ(岩槻キャンパス)での個人面接を経て、本学を通して申し込むことになります。

また、本学独自の奨学金制度として、卒業生からの寄附金を原資として、大学院生を除く在学生に学納金を貸与する「桐和奨学金」があります。これは、在学中1回に限り、50万円を上限とした年間学納金の半額程度を無利子で貸与する制度です。日本人学生は卒業後2年以内、留学生は卒業時まで返済することが決められていて、現在両キャンパスで約40名が利用しています。

さらに、株式会社日本政策金融公庫(旧・国民生活金融公庫)による教育ローンや、地方公共団体・民間育英事業団が独自に実施している各種奨学金制度を利用することもできます。

保健医療・看護・福祉分野の学生であれば、各地方公共団体などが実施する公的な奨学金制度も充実しています。本学では学内に設置した専用掲示板などを通じて、これらの学外奨学金制度についても案内しています。

家計の急変にも対応。ただし必ず返済を!

日本学生支援機構の奨学金には、年度初めに申し込みをする「定期採用」に限らず、家計の急変で奨学金を緊急に必要とする場合に随時申し込むことができる「緊急採用(第一種)」「応急採用(第二種)」



があります。

特に第二種の応急採用は、年度の初めに遡って貸付が可能になります。例えば、年度末に月額10万円の貸与が認められた場合、前年4月から毎月10万円の貸与を受けたことになるので、12カ月分である120万円を一度に受領することができます。

このように、まとまった額を受け取ることができる第二種では、貸与額の増額を希望する学生も増えています。正当な理由があれば1年度につき1回に限り、概ね増額が認められます。

ただし、返済については注意が必要です。卒業後の返済計画は、申し込み時に本学職員と相談の上、月々の返済額などを決めていきます。定期募集人数は学校ごとに定数が割り振られていて、毎年若干の増減があります。この定数は、それまでに当該校で貸与を受けた卒業生による返還率や延滞率によって変動します。在学中に貸与を受けた卒業生が返済を怠ると、母校の後輩が同制度を利用しにくくなってしまいますので、卒業後は必ず返済義務を果たしてください。

学生サービスグループ、教務・学生支援グループでは、学納金の支払いや奨学金の利用に関しても、個々の家庭の状況などに応じてきめ細やかにサポートする態勢を整えています。学費に関する相談事がある学生の皆さんは、一人だけで悩むことなく、まずは各グループの窓口へ足を運んでみてください。

優秀な学生をバックアップする

「佐藤重遠奨学金」と「床次徳二記念賞」

貸与する奨学金とは別に、本学独自の表彰制度があります。在学中の成績優秀者に対して、4年次の授業料が半額免除される「佐藤重遠奨学金」は、各学科から1人ずつ推薦されて対象者が決まります。給付方式なので、卒業後に返済の必要はありません。

「床次徳二(とこなみ・とくじ)記念賞」は、学業・スポーツなどで顕著な業績を修め、目白学園の名を高めたと認定される個人や団体に対して、卒業時に褒賞金を授与する制度です。団体も対象なので、好成績を挙げたクラブやサークル全体が受賞する場合があります。



学園インフォメーション

中学校・高校

2009.1.8 新5号館完成記念式典
平成19年4月から建設が進められてきた新5号館が完成し、教職員および中学・高校の生徒と工事関係者が集まって、新校舎前で記念式典が行われた。佐藤弘毅理事長の祝辞に続き、テープカットと桶玉が開披されると大きな拍手が。この真新しい校舎で新学期が始められる生徒たちは一様に晴れやかな表情をみせた。



2009.2.13 第32回スピーチ&ドラマ・コンテスト
「目白学園中学校」としての最後のスピーチ&ドラマ・コンテストが開催された。昨年11月から原稿執筆や練習など準備を重ねてきた生徒たちは、緊張の面持ちでこの日を迎えた。本番では、胸の高まりを抑えつつ見事なパフォーマンスを披露。広実義人審査委員長(目白大学英米語学科准教授)の激励の言葉に皆、安堵と満足感の滲んだ表情をみせた。このコンテストは「目白研心中学校」に改称した後も実施される。

大学・短大・大学院

2008.12.10 金剛大学校と二重学位協定を調印
韓国・金剛大学校と本学との間で締結した二重学位協定の調印式が、新宿キャンパスで行われた。この協定は、本学で2年間、協定校へ留学して2年間学べば、4年間で両校の学位が同時に取得できるとするもの。本学の外国語学部韓国語学科では、この協定を韓国の多数の大学との間で結んでいる。調印式には、成業承総長はじめ金剛大学校の皆様が参加。成総長からは協定締結の記念に、韓国伝統の重厚な朝鮮鐘を模した小型梵鐘が佐藤弘毅学長に贈呈された。

で行われた。この協定は、本学で2年間、協定校へ留学して2年間学べば、4年間で両校の学位が同時に取得できるとするもの。本学の外国語学部韓国語学科では、この協定を韓国の多数の大学との間で結んでいる。調印式には、成業承総長はじめ金剛大学校の皆様が参加。成総長からは協定締結の記念に、韓国伝統の重厚な朝鮮鐘を模した小型梵鐘が佐藤弘毅学長に贈呈された。



2008.12.13 冬のキャンパス見学会

岩槻キャンパスにおいて、今年度最後のキャンパス見学会が開催された。個別ブースでは、入試の出題傾向や面接に対する心構えなどを熱心に相談する受験生の姿が目立った。在学生がガイドを務めるキャンパスツアーでも、具体的な質問を投げかける様子が幾度となくみられ、入試を目前に控えた受験生の真剣さが印象的な見学会となった。



2009.2.4 氏森英亞教授・福島脩美教授が最終講義
人間福祉学科の氏森英亞教授と心理カ

ウンゼリング学科の福島脩美教授の最終講義が開催された。氏森教授は「障害者心理学における私の歩み」を、福島教授は「ゆく川の流れるは…〜カウンセリング心理学と私〜」をテーマに講演。ユーモアたっぷりの講義に、熱気を帯びた会場内は時折笑いに包まれた。講義後の懇親会は、田中勝博教授の司会と岩崎庸男副学長の乾杯の音頭で開幕。現在の人間学部の礎を築いた両教授の人格を反映したかのような和やかなひとときとなった。

2009.2.6~7 一般入試A日程実施
2日間にわたり、平成21年度の大学・短期大学部入学試験(一般入試A日程)が実施された。初日の朝に一部の交通機関で遅延が発生したが、大きな混乱はなく無事に終了した。

2009.2.12 経営学科卒業論文公開審査を実施
経営学科で毎年恒例の卒業論文公開審査が実施され、卒業を目前に控えた経営学科の4年生が緊張の面持ちで自身の論文のプレゼンテーションに臨んだ。正装した4年生たちは皆、自身の研究成果を順番に発表。厳格な雰囲気の中、ときには教員からの質問に言葉を詰まらせる場面もあったが、それぞれが4年間の学習成果の集大成を精一杯披露していた。



生活科学学科のお弁当&製菓学科のケーキが大好評

昨年11月から今年にかけて、短期大学部生活科学学科と製菓学科の学生による実習作品を学内で発売する試みがスタートしました。生活科学学科フード・ウェルネスコースではお弁当を、製菓学科ではケーキを用意。どちらも開店前から学生や教職員が長蛇の列をなすほどの人気ぶりでした。お弁当は和洋中3種類で、どれも考え尽くされた栄養バランスと本格的な味わいで話題となりました。「欠食」という、女子学生に多い食生活の問題に取り組む学生たちの真摯な姿勢と熱意が込められた見事な仕上がりです。



一方、製菓学科の作品には「ビッシュ・ド・ノエル」やコーヒーフレークの「フランソワ」など、ケーキを中心に人気のスイーツが登場。そのプロ並みの出来ばえからは、研究に対する学生たちの想いが感じられます。「ケーキ作りの技術だけでなく、コスト計算など小売業の勉強にもなる」ととても意欲的です。いずれも研究活動の一環ですが、店頭では学生や教職員同士の楽しそうな接客風景が見られ、販売実施日はキャンパス内のどこよりも活気にあふれていました。



※お弁当とケーキの販売は、次年度も実施される予定です。



イメージを言葉に置き換えることで
始まった創作活動

「あなたのデザインが、キャンパスグッズになります!」[広く親しまれるカレッジソングの歌詞募集!]。昨年、目白大学や目白学園で学ぶ学生、生徒たちに呼びかけられたこの2大プロジェクト。数多くの応募作品の中から見事最優秀作品に選ばれたのが、心理カウンセリング学科4年の柴崎さんの描いたロゴマークとメディア表現学科2年の金子さんが作った歌詞でした。

同じように表彰された2人ですが、応募の経緯や動機は、当初は全く異なっていました。柴崎さんは「正直言って、参加するかどうか迷ったんです。募集期間がテスト時期と重なっていたこともありまして。ただ、もともと絵を描いたりデザインすることが好きで、大学を卒業したら本格的にデザインの勉強がしたいと思っているので、将来のことも考えてやってみることにしました」と、ややためらいながらの応募だったことを打ち明けます。

一方、金子さんは、音楽に限らず「制作」が大好き。ロゴにも応募し、佳作に選ばれています。「ロゴ制作については、学校のパソコン環境が整ってすごくやりやすかったです。デザインにしろ作詞にしろ表現の場が与えられて、しかも副賞まで貰えるのですから、迷わず両方にチャレンジしました(笑)」。

このように応募のいきさつは異なるものの、その創作手順は驚くほど共通しています。2人はまず、自分が大学に対して抱くイメージを言葉に置き直すことから始めました。「目白大学が持つ若さを表現するには、古い感じのする明朝体よりポップなゴシック系がいい。女子大としての長い歴史があるので、女性らしい丸みや優しさ、人と人との関係を大切に作る姿勢も込めたい。そうしてひらめいたのが、この書体です」。柴崎さんの想いを込めた意図とデザインの見事な調和が、209点もの候補の中で最も高く評価されたのです。

金子さんの作詞も、「光、空、風、樺」といった、自分が大学に対して持つイメージワードを書き出すことからスタートしました。得意のギターで曲を作り、それに言葉を載せていくというのが彼の創作プロセス。「みんなが親しみを持って口ずさみ、チャリダー

たちがはつらつと踊れるように、ということを考慮しましたが、イメージワードがはっきりしていたので、あとは曲に導かれてすんなりできあがりました」と金子さんは振り返ります。

みんなの大学への想いは、
繋がっている

自分なりの手応えを感じてはいましたが、結果を知らされるまでは、2人とも、最優秀作品に選ばれるとは思っていませんでした。

「忘れた頃に大学から連絡があったので、何か悪いことをやってしまったかなと思ったくらいでした(笑)。でも、自分が創ったものが公の場で認められ、しかも長くみんなに使ってもらえるなんて、本当に嬉しいです(柴崎さん)。副賞の賞金は、美術館へ行ったり、普段買えないような書籍を購入するなど「自分の成長の糧となることに使いたい」と喜びを表しました。

また、金子さんも「自分の創作の方向性が間違っていなかったと認められた気がします。他の応募作品も拝見したのですが、どれも母校への想いがあふれた力作ばかり。その中から選ばれたというのはとても名誉なことだと思います。実は欲しいものがあって、『あわよくば賞金で』と考えていたのですが、いざ最優秀賞に選ばれたら賞金を気軽に使ってしまうような気がして、そのまま貯金してしまいました(笑)」と語ります。

平成6年の創立以来、いろいろな挑戦を試みながら成熟した大学へと歩みを続ける目白大学。ここに集うみんなの想いや絆を形にしていこうという意図で行われた初めての学内公募型プロジェクト。その意

ロゴマーク 最優秀作品

mejiro

柴崎 雅人・作

College Song (大学応援歌) 最優秀作品

作詞 金子 隆一郎

風に揺れる樺 背にして 夢を抱こうよ
登る坂はいつも優しく君を支えている

目白の光 心強く
今だ その力の限り

1. 走り出せ GO(GO) 夢追う空
目に映るのは 君たち(君だけ)
最後まで進めよ

この瞬間 (Yeah!) 描いていた その思い乗せて
今 限りない歓びを

校舎の窓に 映る自分はいつも真剣で
ゴールなんかは見えない 今はまだ 走り続けるさ
今日まで 何をしてきたかって?
そうさ すべて このために

2. つかみ取れ GO(GO) 勝利を手に
進むその先に ほら 輝く星がある
信じて (YES!) いる限り 君は大丈夫
さあ 目指していたゴールがある

*1*2 繰り返し

義を、2人は次のようにまとめてくれました。「目白大学は僕らにとって単なる学びの場ではなく、生活環境そのものです。そんな大学をより良くしたいという共通意識によって、たくさんの人が繋がりが合っているのだということを実感しました。そして、自分自身もその1人として、さらに良い母校を創り上げていっているという自信が持てたすばらしい経験だったと思います」。

輝く目白の星

「より良い大学にしたい」という想いを
ロゴマークと歌に託して

キャンパスロゴ 最優秀賞受賞
柴崎 雅人さん(左)
しはさき まさと
人間学部心理カウンセリング学科4年
カレッジソング 最優秀賞受賞
金子 隆一郎さん(右)
かねこ りゅういちろう
社会学部メディア表現学科2年